

幼稚園の日々

子どもが会い集うところ

色々な年齢の子どもがいて、親しくなり、遠ざかり、一人であったり、仲間になったりする。既に仲のよい同士に入っていくことは勇気が必要だ。うまく出会えないことに傷つく。でも、一緒に遊べば思いがけないほど遊びが広がってその喜びは大きい。紙飛行機を飛ばし、砂に穴を掘る。大きい子がうまくやれることに憧れ、仲間に入れてもらえば大きくなったような気がする。大勢が集まって一緒にものを作り出せば、何て大きなものができるのだろう。子どもの付き合いは幼稚園の数時間で万華鏡のように変化する。大勢いたかと思えば一人にもなる。新たな出会いが日々起こる場となる。



◀五歳のお兄さんたちに交じって遊ぶ四歳児（ジャングルジムの上）。紙飛行機を飛ばす。交流し合うというより付いていつているといった感じだ。



▶五歳児（右）が四歳児（左）をうまくリードしているようだ。四歳児もよく付いていつている。紙飛行機から離れて、二人で砂遊びをする。



◀四歳児と五歳児が交じって砂場で大きな山作り。普段一緒に遊ばない同士で参加して遊ぶことができる。

写真・樋口早百合
解説・無藤 隆
協力・目白幼稚園



▶ただ大きな山を作るのではなく、パンパンとみんなで叩くことによって堅くしていく。



◀転入してきたばかりの五歳の女の子。積極的に遊んでいいるが、友達となかなか交じわれない。大山作りのときはみんなと一緒に参加した。さりげなく先生が気にしている。大山作りの写真をもう一度見てほしい(右から二人目のシャベルを持ち上げている子)。